

持続的で収益性の高い温根別農業の確立

みんなで創ろう！地域の和と絆で繋ぐ未来のカタチ・・・

活動対象：士別市温根別町北線地区8戸

大豆の生育調査と個別巡回の結果、大豆減収の要因は①は種の遅れ、②碎土性の低さ、③輪作品目の不足であることが地域で理解された。早期は種が実践されたことで大豆の収量は増収した。ほ場準備とは種作業における省力化技術の検証により、地域全体で早期は種を実現する体制について協議が進んでいる。

地域を支える担い手に対して、地域が抱える課題について試験展示ほを設置し栽培技術の向上を促した。飼料用とうもろこしは極早生品種でも収量を確保することができた。

若手のリーダー格を軸に大豆は種の受託組織の検討が行われており、地域に合った支援システムの確立が期待される。

1 課題の背景

地域の現状

雪解け遅く栽培期間短い
市平均と比較して低収

高齢化や離農等により
担い手へ急速に農地集積

地域の課題

大豆の低収要因解明と
安定生産の実現

栽培技術や経営能力
向上に向けた育成支援

普及センターの活動

早期は種の提案
省力化技術の検証
緑肥導入の支援

若手の自主課題への
取組支援

昔に比べて大豆の面積が増えてるけど、収量をとるのが難しくなってるんだよ...

作物の生理生態を理解して、新しい農業機械をうまく使えば、少ない農家戸数でも地域農業をよりよくできるんじゃないかな...

2 活動の経過

畑作物の安定生産（8戸）

大豆の低収要因は、①作付面積の拡大にともなうは種遅れ、②碎土性の低さ、③輪作品目の不足が大きいことが判明

- ・早期は種を個別巡回で提案
- ・作業省力化の検証に試験ほ設置（ほ場準備3倍×は種機4機比較）
- ・土壌物理性改善、緑肥導入の提案



地域を支える担い手の育成（3戸）

若手の自主課題の取組支援

作物の生理生態理解

課題1



新規輪作品目の検討

課題2



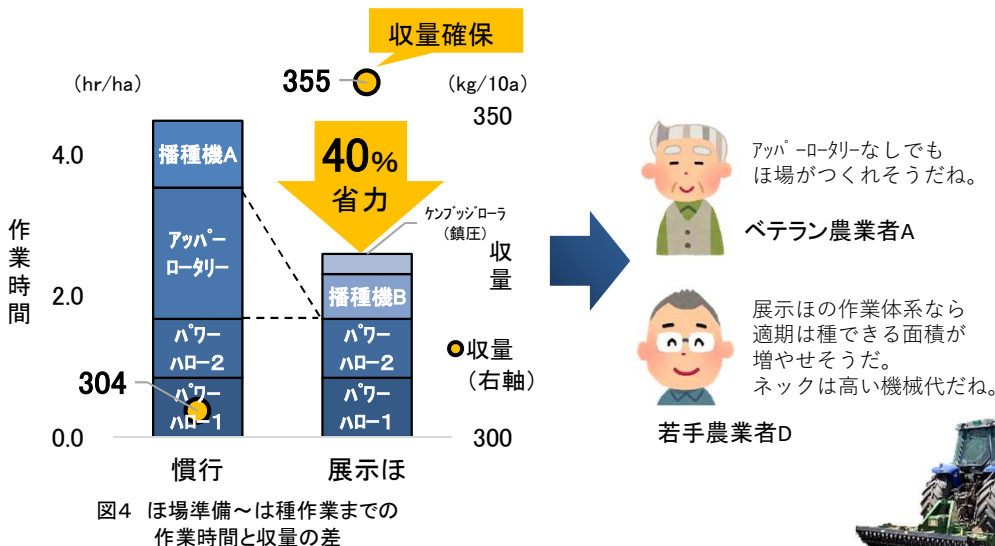
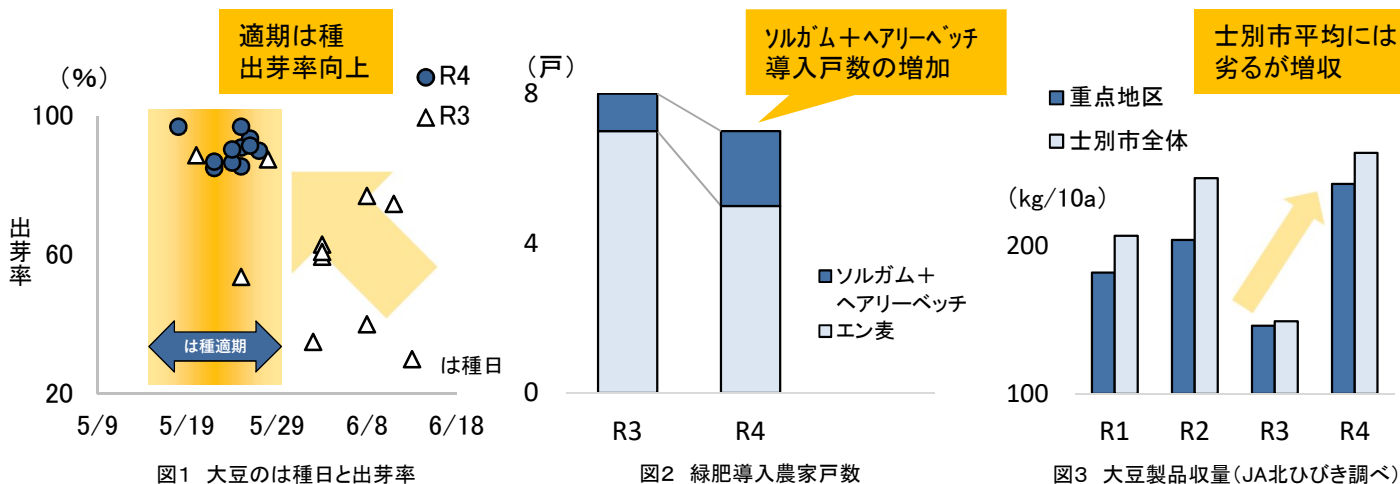
土壌物理性の改善

課題3



3 活動の成果

畑作物の安定生産



農業者の声と今後の動き

共同利用の検討

数戸では種機を共同利用し大豆の適期は種ができる体制を検討することに

大豆は種作業イメージ



地域を支える担い手の育成



農業者D

秋まき小麦追肥試験

麦は茎数管理が肝だね。は種量をもうちょっと減らしてみよう！

表1 飼料用とうもろこし試験ほ生育・収量

調査区	は種期	収穫期	乾物収量 (kg/10a)
試験区	6月7日	9月14日	1,657
作況 (本年)	5月19日	9月14日	2,021
作況 (平年)	5月26日	9月19日	1,637



農業者B

草地だったから透排水性を良くしたくて作付けしたよ。とうもろこしの根張りはいいから目的は達成できたかな！

飼料用とうもろこし試験

なるほどね、これぐらいの面積を受託できれば採算合いそう。みんなで話し合ってみよう。



機械共同利用に向けた収支のシミュレーション

自主課題の取組を通じて栽培技術・経営能力UP!!

4 今後の対応

畑作物の安定生産

- ・ 土壌物理性の改善
- ・ 大豆栽培における省力化技術の普及
- ・ 春まき小麦の初冬まき栽培支援

地域を支える担い手の育成

- ・ 秋まき小麦のは種日・は種量比較試験
- ・ 飼料用とうもろこし調査結果を士別地域導入希望者へ提供